高津区おはなしアーカイブ

●原　継雄（はら　つぐお）さん
昭和２０年生まれ　７３歳
川崎市高津区下野毛在住

◆ご家族の様子は

私の父はこの原家の長男として生まれ、宿河原出身の母とは見合い結婚です。母は、村一番の働き者ということで見初められたようです(笑)。兄弟は、私が長男で弟が２人に妹が２人です。私が生まれる前に祖父は亡くなっており、家族は祖母、両親、５人兄弟と、書生というか若い職人が１人おり、全部で９人で住んでいました。祖母は私が２９歳のときに９０歳で亡くなりました。私が酉年で、一番下も酉年なので丁度１回り違う干支の中の５人兄弟です。

◆子どもの頃の様子は

私は、73 年前にこの家の防空壕で生まれました。ほら、そこの戸を開けると地下までの階段があります。

（元・防空壕の階段）

現在は、御祓いをして中をコンクリートで固めて地下室のようにしています。室内灯も付けました。

（元・防空壕内）

このへんは、よく爆撃を受けたそうです。宮内に水門があったし、近くには地上から航空機を攻撃するための高射砲が設置されたそうです。

ここから宮内まではずっと、畑でね、今の府中街道は土手です。とにかくこのへんは、自然がいっぱいで、当時は「ガチャガチャ」といったクツワ虫や、「チョットコイ」と鳴くキジ科の野鳥のコジュケイの声で起こされましたよ。東京から猟に来る人も多かったそうです。

◆小学校の思い出は

小学校は、東高津小学校の第一期生です。１クラス５０人が６組で、１学年３００人くらいでした。元・日本通信の工場を校舎にしたようで、戦争のときはだいぶ爆弾を落とされたようです。

小学校の一番の思い出は町内対抗リレーです。小学校の１年生から６年生まで、男女が１人ずつ２名の選抜メンバーが計１２名で、競い合うのです。３０世帯くらいしかないですから、どこの誰とすぐわかってしまうのですが、とにかく盛り上がりましたよ。

遊びでは、釣りでしたね。アユやフナが獲れました。当時は寒いと多摩川でも氷が張ってね、ドロドロの粘土地帯が凍ると、氷を割って糸をたらしました。このやり方は「どぶ釣り」と言いました。

夏祭りは、この近くの神社のお宮さんは宇佐神社の分家なので、小さくてね・・・。芝居小屋もないから屋台も無くて、寂しいもんでしたよ。神輿を担げたのは、身長が１６０センチになった中学生からかな。お菓子を貰った記憶がありますね。

◆当時の食生活は

白いご飯なんて贅沢品ですよ。基本的にはずっと麦飯です。田んぼが無いから陸稲です。また、このへんは落花生、長芋、里芋、ゴボウなど根のものが多かったです。鶏を飼っていたから、卵は毎日食べられました。今や、麦とろご飯に卵なんて、本当にヘルシーで贅沢なものですよ。私は、毎日食べていたから、今さら麦とろご飯にお金を払う気はしないけど(笑)。

夏は、スイカ、ウリ、キュウリ、トマトなどは家で作っていたから、食べ放題でした。朝採り野菜を川で冷やしておいて、川遊びのあと昼に食べ、夕方までまた遊んで、家なんかに帰りませんでした。当時のトマトやキュウリなんてもう、今と匂いが違っていてね、瑞々しくて青臭さがあって旨かったですよ。あの頃にトマトが嫌いな人はあの匂いですよ、今嫌いな人は、もう匂いが無いから、あの中身の種が嫌みたいだね(笑)。

東横の池で、イナゴを捕れば、女の子たちがその場で料理してくれましたよ。鍋の１つもあれば火なんか簡単に点けられたもの。

秋は、この地域で有名な「禅寺丸柿」を出荷していました。

（禅寺丸柿）

十五夜の風習で団子や柿の実を家々の縁側にお供えするのですが、それを友だちらと失敬しに行くのです。見つかると「こらー！」と怒られるのですが、みんな親たちも承知のことでしたね(笑)。

調味料などの買い物は、近所の「池田ストアー」と「大島屋」で、魚は「小黒」でした。この魚屋が時々、行商で売りに来るのですが、うちが一番端っこに住んでいたから残った魚を全部置いていくんですよ。なんせ、９人家族の大所帯でしたから、全部うちが買い取りました。しかしながら、川魚の中でも「マルタ」といって、ウグイは食べるのが大変でねえ、小骨がＹ字になっていて喉に引っかかると取れなくて･･･。

家族の食事のおかずはとにかく煮付け料理だね。うちは、両親が働いて忙しいから、野菜でも魚でもなんでも煮付けで出しておけば日持ちがしたし。まして冷蔵庫なんてのも無かったし。納豆料理では、刻んだキュウリを混ぜて、量を増やして味付けは醤油だけ。これが美味くてね、まあ皆で食べるからかもしれないけど、いまだに好きですよ。毎日、とろろ麦飯に卵、新鮮な野菜ものを食べていたから、兄弟はいまだに皆元気です。残念なことに、すぐ下の弟だけが２年前に亡くなりました。

◆家業はカーネーション作り

野菜や果物作りの他に、土壌が米にはむかないけど、花には合うということで昭和２９年から花卉(かき)園芸業を始めました。これは観賞用の草花を栽培し切花などを出荷する仕事です。なぜ、父がカーネーションの園芸業に目をつけたかは、きっと百姓をしたくなかったからでしょうね(笑)。父は都立園芸高校を出て勉強はしていましたから。

当時の園芸業はうちを入れて４軒ありました。毛塚農園、小島農園、宮内の横田さんです。昔はカーネーション１本１本が高級品でした。１０歳から、私とすぐ下の弟と１人の職人とで手伝いました。その温室は、普通のビニールハウスなどではなく、ガラス張りの温室でした。３００坪の温室が２つあり、全部で６００坪ありました。その温室は、夏は暑くて、冬は寒くてねえ・・・。冬は花のためにボイラーの暖房をつけました。父と交代で、火の番をしたのですが、小さなリヤカーに半分、石炭を積んで運び、ボイラーに火を点けると３時間はもつのです。夕方６時に、父が火を点

けてどっかに飲みに行き、１２時ころに帰宅する間、私が夜９時まで番をしてそれから寝て、夜中の３時に起きて番をしました。起きられないと祖母が起こしてくれましたっけ。この睡眠時間はいまだに身体が覚えていて、現在も目覚まし時計無しの早寝早起きです。

温室はボイラーだったけど、家の中の土間にはダルマストーブがありました。これは実に暖かいのです。多摩川付近のこのへんは、実に寒くて東京より温度は２、３度低いのです。今も自宅の玄関でストーブを使っています。

（玄関のストーブ）

中学生になると、出荷も手伝いました。「母の日」は稼ぎ時ですよ。カーネーションは、ナマ物ですから前日に摘んだ２０本を１束にして１，０００本を自転車で市場に運ぶのです。自転車といっても、昔の郵便屋さんが使うようなガッシリとした荷台です。道に信号機なんか無いから、中学生でも最初の坂さえ頑張れば、２０分で市場まで行けました。そこで競りにかけられるのです。

カーネーションは二毛作がダメなので、花が咲いた後の雨期に、土の入れ替えです。土を一輪車で全部運び出して、ニシンの油粕を肥料としてまた、土に混ぜたりしてなかなか大変でした。雨で濡れている土ですから重くてね。

私が２０歳のときに、排気ガスなど汚れた空気が影響したのか、花の栽培に適さないほど環境が悪くなって花作りは限界、家業を閉めました。なので、私は大学卒業後は車会社に勤めました。

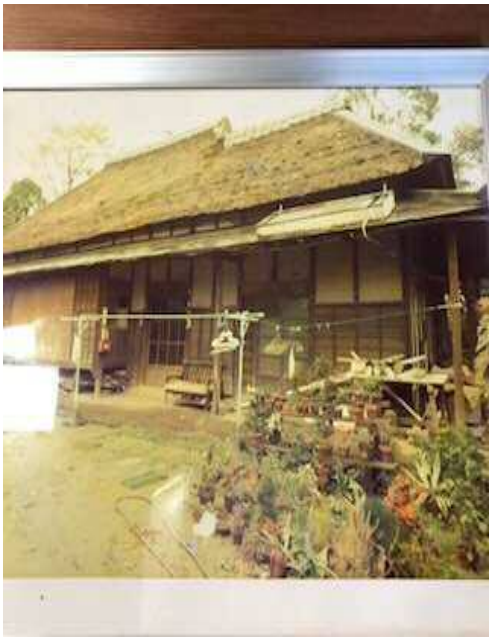
◆多摩川の移り変わり

よく祖母から聞いていたのですが、昔は台風や大雨で川が氾濫すると流れが凄かったようです。多摩川を真っ直ぐにする改修工事でだいぶ流れが落ち着き、被害も少なくなったようです。そのときの様子が今、武蔵小杉にある日本医科大学病院の玄関前の壁に飾ってありますよ。

下野毛はもともと、上野毛と野毛と同じ東京都でした。多摩川が下野毛を真ん中にして分けたことで、下野毛だけが神奈川県となりました。他にも神奈川県と東京都には同じような地名が残っています。世田谷の等々力や、宇奈根などがその例です。こうした地名は昔、川が湾曲していたことで、地域が明白に分断されてなかったからです。

だから、下野毛の古い住人のお墓は川向こうの善養寺です。

うちには、７５年前の藁葺き屋根時代の自宅の写真が残っています。床を高くしてあり、もしもの浸水時には川の水が床下を流れるような作りです。ただでさえ、高い天井なのに、そこには脱出用の舟が吊るしてあったそうです。だから、天井の高い家は多摩川の風が吹き抜けて、冬は実に寒いですよ。



（７５年前の自宅）

当時は北見方までは、田んぼがあったけど、ここでは無理です。うちは多摩川の河川敷に建っているので、洪水時には川の真ん中にあるようなもので、やはり多摩川が真っ直ぐになって本当に良かったですよ。

◆渡し舟の思い出

多摩川に第三京浜の橋が架かる以前には、向こう岸に渡る手段に渡し舟がありました。当時は東京からこちらに、猟に来る人もたくさんいましたからね。下野毛にも渡し舟の船着場があり、大人５円、猟犬が５円でした。しかし、犬に５円を払うのはもったいないと犬は泳がせて渡らせていたなあ。

多摩川を渡るときに、村に渡し舟の当番というものがありました。２ヶ月に１回くらい回ってくるのですが、当番になると土瓶のお湯を沸かして朝１０時と昼過ぎの３時にお茶を淹れました。運賃料金の集計は、全部で１，２００円くらいあったと思いますが、学校貯金として銀行に貯めて、それが中学になると校内貯金になりました。それが、のちに何に使われたかは、さっぱりわからないなあ(笑)。

多摩川の粘土状の「赤岩」は水をかけるとツルツルになって、滑ったり飛び込んだりとよく泳いで遊んだのですが、舟の竿がこの川底の粘土に取られると、乗客がもう１本の竿で助けてくれましたよ。東急がゴルフ場を開発すると、商売用のクルーザーで川を渡れるようになりました。橋ができて、墓参りで善養寺に行くのはラクになりましたね。

◆今、振りかってみて

３０軒くらいしかなかったこのあたりの家で実際の農家はもうありません。昔から

の下野毛の住人と新しく移り住んできた人たちとの交流はなかなか難しいですね。生産組合の人が農協の会合を旅行会や食事会と音頭をとってくれていてありがたいです。

　今の私の趣味はゴルフです。ゴルフの試合で、自然豊かな地方に行くと、昔のこの下野毛の風景が懐かしく思い出されます。昔は宮内のほうを見るとよく、ヒバリが見えましたよ。どんどん自然が無くなるのはなんとも寂しいですね。

（平成３０年９月１１日取材）